

■ 奈良県明日香村の国宝「高松塚古墳壁画」発見 50 周年 ■

第 48 回 「関西大学飛鳥史学文学講座」を開講

【期 間】4月10日（日）～ 2023年3月5日（日） 各回 13:00～15:00 <全 13 回>

【場 所】明日香村中央公民館（奈良県高市郡明日香村）

関西大学ではこのたび、「2022年度 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—」（全 13 回）を、4月10日（日）から 2023年3月5日（日）にかけて、明日香村中央公民館にて開講します。

本件の ポイント

- ・本学考古学陣による高松塚古墳の壁画発見を契機に、研究成果の社会還元を目的に開講した講座
- ・2022年度で開講 48 年目、通算 500 回超、延べ受講者数約 11 万人と根強い人気を誇る
- ・明日香村とは古墳・遺跡発掘調査や古墳関連史跡の世界文化遺産登録に向けた活動等で連携

極彩色壁画で有名な高松塚古墳の発見をきっかけとして 1975 年に開講し、今年で 48 年目（通算回数 500 回超）を迎える本講座。開講当初から継続して受講するリピーターも多く、シニア層を中心に根強い人気を誇ります。熱心な若い世代や近畿圏外からの受講者もおり、これまで延べ約 11 万人が受講しました。さらに今年も、1972 年の故網干善教助教授（当時。後に名誉教授）ら本学の考古学陣による世紀の大発見から、ちょうど 50 年という節目の年。考古学ブーム、その人気はまだまだとどまる所を知りません。

講師には、本学の文学・歴史・文化遺産学の専門家である教授陣に加え、学外から作家の玉岡かおる氏や元宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官で本学客員教授の徳田誠志氏、世界文化遺産登録を目指す明日香村村長の森川裕一氏、明日香村教育委員会文化財課の西光慎治氏らを招きます。初回の 4 月 10 日（日）は、「高松塚古墳発掘 50 周年を考える —調査研究の成果と今後の課題—」と題して、本学文学部の米田文孝教授が講演します。

本学では今後も、壁画発見 50 周年記念事業をはじめ、県や村が目指す古墳関連史跡の世界文化遺産登録を目指した事業など、一層の連携強化に取り組んでいきます。

<2022 年度 第 48 回 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾— 概要>

【開講期間】4月10日（日）～ 2023年3月5日（日） 13:00～15:00 <全 13 回>

※特別講のみ 10:00～12:00。詳細スケジュールは次ページご参照。

【場 所】明日香村中央公民館（奈良県高市郡明日香村川原 91-1）

【定 員】200名 【受講対象者】飛鳥時代をはじめとする歴史や文化に興味関心をお持ちの全ての方

【受 講 料】年間受講料5,000円、1講座のみ受講は1,000円

※明日香村在住者ならびに、本学学生、本講座に興味のある中高生は無料

【受講申込にかかる問合せ先】関西大学教育後援会 飛鳥史学文学講座係 TEL:06-6368-0055

【主 催】関西大学飛鳥文学研究所、明日香村教育委員会

【過去3年間の実績】2021年度:1,531名、2020年度:1,481名、2019年度:1,449名（延べ受講者数）

▼イベント詳細 <https://www.kansai-u.ac.jp/pa/event/asuka.html>

取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、島田、木田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ <2022年度 飛鳥史学文学講座> スケジュール・講師・テーマほか

【趣 旨】

1972年、故網干善教助教授（当時。後に名誉教授）率いる関西大学の考古学陣が、日本初となる高松塚古墳の壁画を発見した。本講座はこの未曾有の大発見を契機に、本学の研究成果を広く社会に還元することを目的として企画されたもので、本学飛鳥文化研究所と奈良県明日香村の共催により実施している。これまで延べ約11万人が本講座を受講し、2022年度で開講48年目を迎える。

2022年3月21日で世紀の大発見から50年の節目を迎えた。本学では記念事業をはじめ、県や村が目指す古墳関連史跡の世界文化遺産登録を目指した取り組みなど一層の連携強化に取り組んでいる。2020年の明日香村・中尾山古墳の発掘調査では、古墳の大きさを正確に把握するとともに、精巧な加工技術と朱塗りが施された石槨内部の構造を明らかにした。

【スケジュール】 ※開催時間は13:00～15:00。特別講のみ10:00～12:00

回	日 程	講 師・テーマ
1	4月10日	関西大学文学部教授 米田 文孝 「高松塚古墳発掘50周年を考える－調査研究の成果と今後の課題－」
2	5月8日	関西大学名誉教授 西本 昌弘 「牽牛子塚古墳の諸問題」
3	6月12日	関西大学副学長・文学部教授 藤田 高夫 「東アジアの古代石刻文化－古代漢字文化の諸相（二）－」
4	7月10日	関西大学文学部非常勤講師 今尾 文昭 「飛鳥「猿石」の誕生と変遷－幕末維新期の陵墓と在地社会を映す－」
5	8月7日	関西大学文学部教授・なにわ大阪研究センター長 乾 善彦 「歌物語としての『古事記』下巻－『古事記』仁徳天皇条をよむ－」
6	9月11日	作家 玉岡 かおる 「万葉人と大海原－海洋と船で眺める古代文化－」
7	10月16日	関西大学文学部教授 長谷 洋一 「奥高野・野迫川村の仏像－知られざる秘境の仏たち－」
8	11月13日	関西大学文学部教授 井上 主税 「朝鮮半島情勢から考える高松塚古墳・キトラ古墳」
9	12月11日	関西大学客員教授 徳田 誠志 「畿内大形古墳の調査と研究－箸墓古墳から見瀬丸山古墳まで－」
10	2023年 1月15日	関西大学文学部教授 村田 右富実 「歌から見る持統朝の雑歌」
特別	2月12日	明日香村村長 森川 裕一 「古代飛鳥の国づくり第7考－飛鳥藤原の世界遺産登録を読み解く－」
11	2月12日	関西大学文学部教授 黒田 一充 「春を告げるまつり－東大寺二月堂修二会－」
12	3月5日	明日香村教育委員会文化財課課長補佐・関西大学文学部非常勤講師 西光 慎治 「高松塚古墳「壁画」発見50周年 飛鳥の王陵を考える －飛鳥地域の終末期古墳研究最前線－」

以 上